

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	嚥下障害(小児)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	椎名英貴・佐野麻子				
実務経験とその関連資格	社会医療法人大道会森之宮病院、ボバース記念病院にて言語聴覚士として勤務(35年間)、脳性麻痺児の摂食嚥下障害、コミュニケーション障害を担当 年間20例 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、日本音声言語医学会認定士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員、日本言語聴覚士協会学術研究部員 回復期リハビリテーション病棟協会理事				
《授業科目における学習内容》					
脳性麻痺による摂食嚥下障害の特徴、摂食嚥下の正常発達、脳性麻痺の摂食嚥下障害の評価、援助計画の立案、食事姿勢の設定、食形態の設定、実際の食事援助方法、長期的な経過について					
《成績評価の方法と基準》					
定期試験(100%)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
(教科書)摂食嚥下障害:医学書院 標準摂食嚥下障害学 2版					
《授業外における学習方法》					
毎回の講義をしっかりとノートにまとめてください。					
《履修に当たっての留意点》					
脳性麻痺は小児のリハビリテーションの中でも中心的な疾患です。姿勢や運動の障害が特徴的ですが、感覚知覚の問題、認知コミュニケーションの問題など多様な要因が関与します。STの対象となる摂食嚥下、コミュニケーションに関しても、運動障害の側面以外にも多様な要因が関与します。臨床場面でも発達学的、神経学的、運動学的な多様な知識と技術が要求される分野です。講義ではVTRを使用した演習、実技練習などもまじえ実際的な学習ができるよう計画します。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	目標1)脳性麻痺の摂食嚥下障害の特徴を列挙できる。	教科書、配布資料	予習課題:脳性麻痺の定義、疫学 復習課題:摂食嚥下障害の特徴	
	各コマに おける 授業予定	脳性麻痺の定義、疫学、分類 脳性麻痺の摂食嚥下障害の特徴			
第2回	授業を 通じての 到達目標	目標2)摂食嚥下運動の正常発達の指標を示すことができる	教科書、配布資料、 講義用ムービー	復習課題:正常発達の観察	
	各コマに おける 授業予定	正常発達			
第3回	授業を 通じての 到達目標	目標3)援助計画の立案において評価すべき項目を列挙できる	教科書、配布資料、 講義用ムービー	復習課題:評価表の確認	
	各コマに おける 授業予定	脳性麻痺の摂食嚥下障害の評価			
第4回	授業を 通じての 到達目標		教科書、配布資料	復習課題:評価表の確認	
	各コマに おける 授業予定	評価演習 VTR観察			
第5回	授業を 通じての 到達目標	目標4)援助の立案方法の理解できる	教科書、配布資料	予習課題:援助の3つの柱について図の確認	
	各コマに おける 授業予定	姿勢コントロール 食形態の調整 食事介助方法			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	目標5) 姿勢コントロールの基礎を経験する	教科書、配布資料	復習課題: 姿勢コントロール実技
	各コマにおける授業予定	演習 姿勢コントロール		
第7回	授業を通じての到達目標	目標6) 食事介助の基礎を経験する	教科書、配布資料	復習課題: 食事介助方法 実技
	各コマにおける授業予定	演習 食事介助		
第8回	授業を通じての到達目標		教科書、配布資料	復習課題: 特殊な問題への対応
	各コマにおける授業予定	特殊な問題への対応 長期的な経過について		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			